

平成29年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

## ミクロネシア諸島自然体験交流事業 実施報告書

【趣 旨】 日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的とする。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構（地方プログラム担当：国立江田島青少年交流の家）

【期 日】 平成29年6月22日（木）～26日（月） 4泊5日（施設受入期間：江田島）  
平成29年6月24日（土）～25日（日） 1泊2日（ホームステイ期間）  
平成29年6月18日（日）～27日（火） 9泊10日（日本滞在全日程）

【会 場】 国立江田島青少年交流の家及び江田島周辺地域

【対 象】 10～14才までの青少年35名、随行者6名 計41名  
○マーシャル諸島共和国・・・青少年23名、随行者4名  
○ミクロネシア連邦・コスラエ州・・・青少年12名、随行者2名  
○ホストファミリー17家庭

【協 力】 江田島市教育委員会（学びの館）、江田島市市民生活部人権推進課、陀峯太鼓、江田島市立鹿川小学校

### 【企画・運営のポイント】

- (1) ビキニ諸島の水爆被害のこともあり、プログラムの中に平和学習を取り入れた。
- (2) 日本の伝統的な遊びや食文化に触れる機会として、「学びの館」や地元小学校（日本の学校給食も体験）との連携を図った。
- (3) 踊りや音楽に興味があることから、ソーラン節、和太鼓、日本の歌（ふるさと）を紹介した。
- (4) ホストファミリーとの連携をしっかりとるように心がけた。事前の説明会、「英会話教室」、事後の「手紙教室」も開催した。
- (5) ホームステイプログラムに入る前の段階で仲良くなるために、前泊をしたり、一緒に登山をする等、触れ合うことができる時間を設けた。

### 【活動の実際】

#### ・事前学習

6月10日（土）・・・ホストファミリーを対象とした英会話教室、ホストファミリー説明会  
江田島市市民生活部人権推進課と連携。24名が参加。

#### ・江田島プログラム中の活動内容

6月22日（木）

昼過ぎ：広島空港到着 → 広島平和学習（原爆ドーム、資料館、平和公園）→ 夕方：交流の家到着



広島入りした後、平和学習を行った。「原爆の子の像」の前では、丁度、折り鶴を捧げた後、誓いの言葉を述べる修学旅行の団体に出会うことができた。感慨深げに眺めているミクロネシアの子供たちの姿が印象的であった。入所後は、事前連絡や簡単な説明では十分伝わらない部分があり、文化の違いを痛感させられる初日の夜となった。

6月23日（金）

午前中 「学びの館」訪問 「日本の遊び・文化を体験」

午後 江田島市立鹿川小学校を訪問 給食体験・日本の小学生と交流

夜 ホストファミリーとの対面式 日本の子供たちと一緒に宿泊



少しタイトな日程となったが、「学びの館」では日本の伝統的な遊びを体験し、抹茶や和菓子を味わった。また、前日の平和学習で話に聞いていた、折り鶴の作成にも挑戦した。午後からは江田島市内の小学校を訪問したが、我々の心配をよそにすぐに仲良くなり、楽しいひと時を過ごすことができた。夜はホストファミリーとの対面であったが、ミクロネシアの子供たちは持ち前の人懐っこさで、「パパとママはどこ？」と確認するとすぐに駆け寄って打ち解けていた。自分より小さな日本の子供をかわいがる姿も印象に残った。この日は追加の説明をしたことと、ボランティアのサポートもあり、入浴から就寝へとスムーズな流れで生活することができた。

6月24日（土）

午前 水晶山登山 ホストファミリーの親も合流

午後 ホームステイプログラムスタート



出発前にコミュニケーションをとる目的で、軽い登山を行った。この期間中は梅雨にもかかわらず、天候に恵まれ、本当に助かった。ホストファミリーの打ち合わせ通りの動きでの協力もあり、スムーズに進行することができた。各家庭とも創意を生かして様々な計画を立てており、和やかなムードで出発していった。この日は子供たちがそれぞれのホストファミリー宅に泊まるということで、夜は我々と随行指導者（シャペロン）との親交を深める時間を設けた。

6月25日（日）

午前～午後

ホームステイ先での体験 → 交流の家に移動

夜

フェアウェルパーティ（講堂） ダンス、陀峯太鼓、ふるさと合唱等



この日は朝から夕方までホストファミリープログラムという形をとった。宮島に行ったり、書道に挑戦したり、日本料理を調理したりと、それぞれの家庭で充実した時間を過ごせていた。後日、多くの素晴らしい写真を見ることができた。フェアウェルパーティは予想以上に盛り上がり、時間が足りなくなってしまった。最後はムードを度外視して急かすような形となってしまったので、来年度はもう少し早い時間に開始する等、工夫をこらしたい。出し物にも力がこもっていた他、楽しそうな笑顔や別れを惜しむ涙等、素晴らしい光景が随所で見られる充実した会となった。

#### ・事後学習

7月2日(日)・・・「ホームステイしたミクロネシアの友達へ手紙を書こう」を開催。31名が参加

#### 【成果】

- 有意義な国際交流ができ、参加者に江田島の海や自然を味わってもらうことができた。感謝と感動の瞬間も生み出した。
- アンケートでは、ミクロネシアの子ども達、日本の子ども達共に、全員が「満足」と答えた。
- 宮島観光や日本料理、伝統的な遊びへの挑戦等、それぞれの家庭の工夫のもと、充実したホームステイプログラムを行うことができた。また、ホストファミリーの人脈を開拓することができた。
- 手探りながら無事終了することができ、一定の手応えやノウハウが得られたこと。やってみなければわからないことにたくさん気づくことができた。
- 空いた時間に、スポーツを通じて打ち解けることができた。小学校での活動でも楽しそうに体を動かしていたことから、今後、プログラムを組む上での参考としていきたい。
- ミクロネシアでも「ふるさと」を歌ってくれていた。(後日談)
- 数件のホストファミリーに「やってよかったです。また声をかけてください」と言われた。

#### 【今後の課題】

- 次回からは今回主担当がした仕事を分野別に分割し、3人程度で割り振るようにするとよい。そして、「全職員で」という空気をもっと出していきたい。
- 文化の違いもあり、入浴や施設の使い方の面で困った場面があった。「うまく伝わらなかった部分」と「伝えても抵抗がある部分」の両方があったように思う。頭に入れて来年度あたりたい。
- 今回はホストファミリー募集のメ切を伸ばして何とかすることができた。来年度は早めに動き始めるとともに、(年度内にやれることをやっておく)今回の人脈を大切にしていきたい。
- フェアウェルパーティでは、泣きながら抱き合う姿が見られた。設定していた時間が短く、急かす形となったことが悔やまれる。来年度はしっかりとのお別れができるようにしたい。